

【黙示録が映し出す近未来の世界；第五のラッパとスピリチュアルなアタック】

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

今日、日本時間の昼、副大統領と副大統領候補のテレビ討論会がありました。それを見ているとマスクをしてなかったので、私もやめようと思ひまして。衝立てがあるので皆様に私の飛沫は被らない、という前提でお話させていただきたいと思ひます。

足下の悪い中、また黙示録は進めば進むほどますます難しくなっている。にも拘らず、このようにご来場頂いて、「知りたい！」という熱意ある皆様の前で話しできるのは、本当にクリスチャン冥利に尽きる事だと思ひます。

さて、黙示録の1番最後に、ある重要な警告が書いてあります。ひと言で言うところ「改ざんすんなよ！」もし黙示録の文章に誰かが何かを書き加えるなら、黙示録の中に書いてある災いが、その人の上に振り下ろされる。

もし黙示録の中のある文章を削り取るなら、その人は新天新地に自分の場所がない。すなわち滅びる。黙示録に限らず、“聖書は完全な神の言葉なので、それを改ざんしたり書き直ししてはならない”という事を、聖書全体の最後に重要な警告として語っているんです。

しかし今、お隣の国中国で聖書の書き替えをやっている。

『大紀元』(だいきげん)という、中国の国内問題を取り上げているネットニュースがあります。

私は毎日必ず目を通してはいるのですが9月28日の記事。

中国の職業訓練学校で使われている道徳のテキストに『職業訓練と法』があつて、イエス・キリストの記事、聖書が引用されています。

姦淫の現場で捕らえられた女性がイエスの前に引きずり出されました。

不倫の女ですが、現行犯で逮捕されたという事は、男も捕まえてないとおかしいですね。

女だけが引きずり出されているという事は罠の可能性が高い。いずれにしても、ハメられた女性がイエスの所に引っ張って来られ、当局の者たちがイエスに質問しました。

「先生、モーセの律法/旧約聖書では、『姦淫・不倫を犯した女は石で打って処刑せよ』と書いてありますが、あなたはどのように言いますか？」イエスは「罪の無い者が最初に彼女に石を投げなさい。」

すると、皆自分の罪について身に覚えがあるので、年長者から始めて一人ひとり去って行った。

皆がいなくなって、女とイエスが2人きりになった時にイエスが言われました。

「わたしもあなたに裁きを下さない。行きなさい。これからは決して罪を犯してはいけない。」

「行きなさい」とは「信仰によって、救い主と共に歩む道を行きなさい」という意味だと思ひます。

非常に感動的な、イエス・キリストのご本質が現れるところです。

ところが、この教科書の聖書の引用ではこうなっているんですね。

「誰もいなくなった後でイエスは女に言った。「わたしも罪人です。もし罪の無い者しか法律が執行できないなら、だれも法律を執行する事ができなくなって、その法律は死んでしまう。」

そう言って、イエスは彼女に石を投げて殺した。】

そして、「この短編を読んで、あなたはどう思いますか？」と。これは大きな問題です。
“人となった神の御子イエス・キリストは、自ら罪人であると白状している”という前提で、「罪が無い者しか法律の執行ができないと言うのなら、誰もできないじゃないか。」

どういう事かという、今中国共産党はもう汚職にまみれているんです。
その中国共産党が国民を弾圧している。それに反対する事に対して「法は法でしょ」と、自分たちが作ったルールを国民に無理強いし、やりたい放題する事を正当化するために、改ざんした聖書を使っている。

1番の問題は、この教科書の中だけストーリーを変えたというのではなく、習近平が国家主席・党の総書記ですね。言うならば“習近平による福音書”…**マタイによる福音書**・**マルコによる福音書**・**ルカによる福音書**・**ヨハネによる福音書**があるように、“中国共産党による福音書”というのが既に存在しているのではないかと？

実は中国のツイッター ウェイボ（Weibo/微博）で、このテキストをスクリーンショットしたのがブワッと広がったんです。それで、聖書そのものの改ざんを中国共産党がやっているんじゃないかと？

2018年3月までは、中国国内でインターネットで聖書の購入ができました。
「共産主義の国で、インターネットで聖書購入できたんか?!」できたと言っても、すごい勇気がいる。ネット通販で何かを買おうと思ったら、自分のIDを販売者に全部渡さないと駄目じゃないですか。どこに住んでいるのか・名前・性別。個人情報全部相手に渡さないとダメ。
「こんな共産主義の中国の中で、聖書を読みたいと思っている奴は誰なのか?」「俺です。」
そんな事を自ら白状するというのは、非常に大きなリスクがありますよね。
それでも2018年3月までは、そういう販売をやっていました。

それがピタッと販売できなくなった。なぜか？
ある方の論評では、中国共産党が書き替えた聖書を、これから流通させるためではないかと。
今書き替えると、本物の聖書を持っている人たちから「これ、書き替えじゃないか」と反論が来るだろう。だけど、中国で流通している聖書の殆どが書き替えられた物になってしまったら、「聖書読みたいな」と思って最初に読んだ聖書が書き替えの物。その第一印象がビシッと入ってしまうので、多くの人々はたとえ聖書を読んだとしても、イエス・キリストは救い主だとして出会う事ができなくなる。

クリスチャンを弾圧するだけでなく、聖書そのものに手を入れ出した中国共産党。
これは大変な問題だという事で9月28日に載ったんです。

その2日後の9月30日、アメリカのポンペオ国務長官（日本では外務大臣）がバチカンに行きました。これをウェイボにアップしたのは中国国内のカトリックの人です。
トランプ大統領の使者として、ローマ教皇フランシスコ1世に「今中国国内では信仰の弾圧が行われているから、バチカンとアメリカが協力して『やめろ!』と反対の声を共有しましょう。」
そのために9月30日にバチカンに行ったんです。

ローマ教皇はポンペオ国務長官に対してどうしたと思いますか？面会拒否ですよ。
「あなたと会いたくない。」「なぜですか?」
「今トランプ政権は大統領選挙期間中でしょ。その間に、どちらかの味方になる事はしたくない。」

いや、大統領選挙期間中って、現職ですよ。候補者が行って会うなら、それは応援した事になるかもしれないけど、候補者じゃなくて、現職の外務大臣として行っているんですよ。ただ「今、中国とケンカしたくない。」

中国国内のカトリックの人が、なぜそれをアップしたのか？
何らかの手段でそれを見た、西側の政治的影響力を持った人たちに動いてもらうためです。
ところが、ローマカトリックのトップであるローマ教皇は、聖書の書き替えをやっている気配の濃厚な中国に対して何も言わない。中国に物申すトランプ政権とは距離を置きたい。
いやー、中国の力ってスゴイな。

なぜこんな話をしているかという、私たちは今ここ日本。だから、聖書を自由に読む事ができる。黙示録を互いに語り合う事ができるんですね。中国の官憲が入って来る事はないでしょう。ただ、これから人類は患難時代に入る。7年間の人類史上最も恐るべき時代です。その時は、今中国で起こっている事が全世界のスケールで起こります。聖書を読みたいと思っても、本物の聖書がどれで何なのか、分からなくなっている可能性がありますね。

私は今のこの時代、聖書を互いに読み合ったり考えたりするというのは、ものすごく稀有な素晴らしい事だと思います。違うのが来た時「おかしい！」と分かるから。でも、初めから改ざんされた聖書しか知らない人はどうしたらいいんでしょう？そんな時代に、今私たちは生かされているという事で、これから患難時代について考えていきたいと思えます。

今までの復習をざっと。毎回やってますが。やがて人類は7年間の患難時代に入ります。クリスチャンたちはその前に携挙されて、天国に引っ張って行かれるのでいません。患難時代のスタートは、反キリストがイスラエルと7年契約の条約を結んだ初日が患難時代の初日です。患難時代のラストの日は、キリスト・イエスが地上再臨して患難時代を終わらせます。患難時代を終わらせるために、イエスは地上にまた下りて来ます。反キリストのイスラエル契約と、イエスのイスラエルでの地上再臨までの期間が7年間です。

この7年間は大きく前半3年半と後半3年半に分けられ、後ろに行けば行くほど酷くなります。前半は“前半の前半と前半の後半”に分けられます。前半の前半と後半、そして後半。前半の前半を7つの封印、前半の後半を7つのラッパ、後半の3年半を7つの鉢で表しています。

今日は7つのラッパの5番目。7つのラッパは最初の4つと後ろの3つに分ける事が出来ます。最初の4つのラッパは自然界に於ける災害で、恐るべき災害ですが、規模はそれほどでなくても、人類が経験した事のある災害ばかり。戦争・飢饉・パンデミック・異常気象などが4つの裁きの中にありましたね。前回やりました。これらは人類歴史の中で経験した事があるものです。

しかし、これから語る5・6・7番目の3つの災害は空前絶後、人類が未だかつて経験した事のない裁き。5番目のラッパは、結論から言うと今日のタイトルのように、悪魔/サタンとその手下の悪霊(あくれい)による人間への直接攻撃が始まります。今日は悪魔/サタン・悪霊の話はどうしてもしなければならぬんです。

悪魔/サタンの存在を無視したら、聖書を読んでも分かりません。
だって、聖書の1番最初の創世記3章で登場するんですよ。1・2・3の3章で既に。

イエス・キリストの公の生涯、最初に何をなさいましたか？荒野で悪魔の誘惑を受けるんです。
イエスを裏切ったイスカリオテのユダは、なぜあんな思い切った事をしたんですか？
「サタンが彼に入った」と書いてあります。
福音書のイエスの記事を見ると、悪霊を追い出す記事がたくさん出て来るんですね。

悪魔/サタンの話を聞いたら、2つの極端な考えがあると思います。
1つは「そんなん無い。それは迷信。悪魔とか悪霊なんかいない。」無神論者はそう言うかもしれません。

加賀乙彦（かが おとひこ/1929-）という東大の医学部教授・犯罪心理学者がいます。
日本の重大犯罪を犯した200人以上と個人面談して。オウム真理教の麻原彰晃（あさはら しょうこう/1955-2018）と最後に面談したのは彼ですよ。小説家でもあります。
彼はドクターをやりながら犯罪心理学者として身を立てていこうと思い、刑務所や留置所にいる重大犯罪を犯した人に、ずっとカウンセリングをして来ました。

その中で出て来た事で、数十年彼が考え続けている問いが「悪魔はいるのか？」
『悪魔のささやき』という本を書いています。
悪魔はいるのかいないのか。数十年間考え続けた結論は「悪魔はいる。」
歴史を見ても、悪魔の存在なしには説明付かないような事が確かにあるんですよ。

もう1つの極端な考えは「なんでも悪魔のせいにする。」
人間が罪を犯した時「それは悪魔がさせた。」あらゆる肉体的病気や精神的疾患は「悪魔による。」
現代医学を全く否定して「病気は全て悪魔や悪霊によるものだ。」
そんな極端な考えになってしまうと、現代医学を受けようとしなないし、全部悪霊祓いで何とかしようとするので悲惨です。カルト的な教会は、そういうのが多いから気をつけてください。

では、両極端ではなくて、どう判断したらいいのか？聖書なんですよ。
一にも二にも、聖書は何と言っているのか。ここに立ち返るのが非常に必要だと思います。
それでは黙示録9章。今日は9章の前半部分です。

最初に9章の内容をざっくり言うと、天から1つの星が地に落ちます。その星は鍵を与えられている。
それを底知れぬ所に通じる穴に突っ込んで扉を開けると2つのものが出て来た。
1つは黒い煙。もう1つはイナゴの大群。
このイナゴは普通の昆虫ではなくて、青草や植物には見向きもせず人間ばかり攻撃する。
攻撃された人間は、5か月間「死にたい！」という気持ちになるけど死ぬ事ができない。

これは、“悪魔が自分の手下の悪霊が収容されている刑務所の扉をガチャッと開けて全員脱走させ、人類を総攻撃している”という事を聖書的表現で語っているのです。

聖書的表現を理解するためには、聖書を知っていなければならないんですね。今日はそれを説明したいと思いますが、3つのポイントで今日のメッセージを締めくくりたいと考えています。

3つのポイント

- 1) 悪魔といえども、神様（創造主）の許可なしには何一つ行動できない。
悪魔は全能の神ではない。
- 2) 人間が悪魔や悪霊の攻撃を受ける事を、神はなぜお許しになったのか。
神は人間を愛しているのではないのか。
- 3) これらの悪霊の攻撃から逃れるための唯一の道とは何か。

黙示録 9:1 第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。

この星は天体の事ではありません。与えられた鍵を使って扉をガチャッと開くんですよ。天体で、そんなのいてないでしょ。天体で、ただ丸いだけやん。しかし、この星は扉を開いてイナゴを脱出させるんです。

かつて天で輝いていたけど、何らかの問題が生じて追放された星とは何か？
その前に見ておきたい所があります。一つの星が天から地に落ちるのを見た。
落ちるのを見たという翻訳だと、星が天から地に落ちて行くプロセスをヨハネが見た。
「落ちる落ちる、地面にぶつかる、ぶつかった」というニュアンスを持ち易いですよね。

ところがこの落ちる、ギリシア語では完了形なんです。
英語とギリシア語では完了形の意味が違います。英語の完了形は時制。完了した。
ギリシア語の完了形は、過去に1回きりの大きな問題が起こって、それがずっと継続し、現在どんな状態になっているのかという有り様の表現。
時制というよりも、過去に起こった結果今どうなっているのか、様態を強調して示す表現。

つまり、昔天にいて輝く存在だったけど、ある出来事によって、天での立場を剥奪された状態に今ある者。そして、星と言われていた者。
旧約聖書に精通している方なら「ああ、あれか！」とピンと来るに違いない。それがイザヤ書 14 章。

イザヤ 14:12 明けの明星、暁（あかつき）の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。
国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。

神から明けの明星と呼ばれている存在。ヘブライ語でヘイレル/הלל
これはハレルと同じ語根なんです。ハレルはハレルヤ。賛美する。輝くという意味もあります。
明けの明星/ヘイレルと呼ばれている人格は、神を最高に賛美する事を本質とする者として創造された。
ヘイレルをラテン語に翻訳したのがルシファーです。ルシファーはラテン語でサタンの俗名。

ここで不思議に思いませんか？なぜ神は悪魔を造ったんだろう？
良い方が悪い者をなぜ造るんだろう？究極に良い方が究極に悪い者をなぜ造られるのか？
神は最初から悪魔を悪魔として造ったんじゃないです。
神は最初、明けの明星/ヘイレル・ハレルする者・賛美する者・輝かしい者として、天使の中で1番位の高い天使として、この霊的存在を造られた。
しかし、そんなにも美しい存在であったおまえが、どうして天から落ち、地に切り倒されたのか。

イザヤ 14:14 「密雲の頂（いただき）に上り、いと高き方のようになろう」と決心したから。

雲は神の臨在を目で見える形で表すものです。

その頂に上るといのは、「神の栄光の頂点によじ登り、いと高き方（神）に挑戦して、私が神になろう。神と戦って私が神になる。神に挑戦し、神を押し退けて、私がいと高き方のようになろう」と反逆した結果サタン/悪魔となった。かつて天にいたけれど、反逆した結果、地に切り倒された存在。

そして、明けの明星は明星とあるように星です。星になぞらえて、天で輝かしい特権を持っていながら、神に反逆した結果、それらの特権を全部剥奪されて追放され、地に落ちた存在。サタン/悪魔。

これを念頭に置いて、もう1度黙示録 9:1 すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。

というよりも、“すると私は、天から地に落ちた1つの星を見た”と訳す方がいいと思います。

落ちて行くプロセスを見たのではなく、かつて天で輝いていたにも拘らず、自らの反逆のせいで追放になった、星と呼ばれていた存在。

聖書では御使いを星になぞらえる…星を象徴的に扱う場合は御使い/天使を表します。

サタンが患難時代 前半の後半、いよいよこれから患難時代全体の後半が近づく直前にやった事が、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられて穴を開くという事。

底知れぬ所はギリシア語でアブソス。英語ではアビス。

これは訳さないでアブソスのままの方がいいと思います。死後の世界にある悪霊の刑務所。巣窟。

悪霊は悪魔/サタンの手下で、そこに押し込められている。

悪霊には2種類あるようですね。アブソスに押し込められている悪霊と、アブソスに押し込められるのを逃れて、今も働いている悪霊。

アブソスに放り込まれた悪霊はいつ放り込まれたのか？

イエスが地上におられた時と初代教会時代には、おびただしい奇跡がありました。

その時、悪霊は憑りついた人間から追い出されましたが、そのまま放っておくなら別の人間に憑りついてしまうでしょう。恐らく、この時に底知れぬ所/アブソスに閉じ込められたのではないかと思います。

黙示録 9:2 それ（悪魔）が底知れぬ所（アブソス）に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。

大きなかまどの煙のような煙という表現が聖書に出て来るのはここだけではありません。

最初は創世記。ソドムとゴモラという肉欲と罪の巣窟みたいな町があって、そこが神から裁きの一撃をくらった時、かまどの煙のような煙が立ち上ったと書いてあります。

つまり、かまどの煙のような煙が立ち上ったというのは神の裁きのシンボルです。

これから起こる事は悪霊を使った神の裁きでもあって、「いよいよ裁きが始まりますよ」という1つのしるし。のろしが上がった。それはかまどから上がる煙だから黒いんですね。

神は目に見えないけれど、神がすぐそばにおられる事を人間に示すために、目に見えるしるしを示す事がありました。例えば、雲の柱が立つ・雷鳴が響く・超自然的な光が立ち上るなどです。

神は目に見えないけど、見える形のしるしを伴って人間に伝える事があるのです。これがシェキナー。

神にシェキナーがあるように、悪霊にもシェキナーがある。
シェキナーというより、悪霊の場合は雲じゃなくて煙なんですね。
患難時代前半に生きている人々にも、ただならぬ事が始まったという事が分かるしるしの黒い煙。
その煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。

黙示録 9:3 その煙の中からいなごが地上に出て来た。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。

今年はイナゴが随分出て来て、アフリカでは 70 年ぶりの大飢饉だそうですね。
でも、このイナゴは昆虫ではない。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。
サソリのような毒を持っているイナゴはないですよ。

『バッタを倒しにアフリカへ』という本があって、めっちゃオモロイ。
「バッタを倒すためにバッタ・サバクトビバッタの研究をする！」とアフリカに飛ぶけど、バッタが全然来ない期間がずっと続く。で、バッタの気持ちを理解するために、全身緑色のコスチュームに身を包んで、バッタが襲いかかってくる所に身を投じて、バッタの気持ちになっていくという。
これ、お勧めします。今年、この人が引っ張りだこ。それはいいとして。

ここで言っているのは昆虫のイナゴではない。昆虫なら植物を食食物にするけれど、
黙示録 9:4 そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印（いん）を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。

人間に襲いかかってくるイナゴ。実は悪霊です。
これは黙示録で初めて出る表現ではなく、旧約聖書のヨエル書 2 章を見ると、“悪霊が患難時代にイナゴのような姿をして人間に飛びかかってくる”という預言があるんです。
今日は時間の都合でそこは見ません。次回に見ます。

ヨエル書 2 章だけ見ていたら何を意味するのかよく分からなかったけど、ヨエル書を引用したものの殆どが黙示録 9 章に出て来るんですね。
つまり黙示録を通して、旧約聖書のこの箇所はどの時代の事を語っているのかを、逆算して知る事が出来るのです。

このイナゴの形には 8 つの特徴があって、それを見ると、昆虫ではなく墮落した天使だという事が分かります。ルシファー（サタン/悪魔）と共に神に反逆した天使。墮落した天使なので墮天使とも言います。
7 節以降に 8 つの特徴が書いてありますが、そこに行く前に。

聖書には天使でも色んな天使がいます。1 番位が高い天使はケルブ。ケルブが複数形になるとケルビム。ケルビムの姿についてはエゼキエル書 1 章に書いてあります。
エゼキエル書って、ゴグ・マゴグしか書いてないんじゃないですよ。他にも色んな情報を提供しています。

エゼキエル書 1 章によると、ケルブは 1 人なのに顔が 4 つ、翼が 4 つある。人間の手が 4 本出ている。足はまっすぐで、足の裏は子牛の足の裏のよう。
1 つの人間のような姿の体に、4 つ顔が付いていたら気持ち悪くないですか？

4つの顔の正面は人間の顔。右側はライオンの顔。左側は牛の顔。もう一方が鷲の顔。人間は創造の冠といって被造物の王です。ライオンは獣の王。牛は家畜の王。鷲は鳥の王。すなわち、神のそば近くで仕えるケルブは、神の被造物の最も品位ある高貴な特徴を持っています。

1つ言えるのは、御使いは人間と動物のミックスした体で紹介されている事が多いんです。動物は動物。人間は人間。ところが、御使いを人間に紹介する時は、その姿かたちは人間と動物の融合というかミックスされたような形で、御使いはこうなのだと旧約聖書に登場するんですね。このイナゴの姿を見ると、動物と昆虫と人間の融合です。つまり、悪霊たちも元々墮落する前は御使いだったんです。ケルブではない。ケルブはルシファーだけ。御使いも墮落した御使いも、動物と人間の融合した姿で表現されています。順番に見ていきましょう。

黙示録 9:7 いなごたちの姿（外見）は、出陣の用意が整った馬に似ていた。頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔のようであった。

馬って言うと何を思い出しますか？ある方が言ってました。

小さな子が「お父さん、鶏は1羽・2羽で犬は1匹・2匹。馬は何て数えるの？」「1着・2着。」相当やり込んでいるね、競馬。彼も立ち直っているので良かったけど。今は馬といえば競馬・乗馬。だけど、ヨハネが黙示録を書いている時点では、馬は兵器なんです。

よく「イエス・キリストは馬小屋で生まれた」と言いますね。福音書のどこにも、そんな事書いてません。「飼葉桶の中に寝かせられた」と書いてあるだけです。当時、ユダヤの民は馬を買う事を禁じられていました。それは武器だからです。兵器だからです。馬は敵を征服するための兵器。

いなごの特徴① 出陣の用意が整った馬に似ている

人間を征服しようと挑みかかってくる存在、それが悪霊。誰に憑りつこうか虎視眈々と狙っている存在。

いなごの特徴② 頭には金の冠のようなものをかぶり

金の冠の冠はステファノス。王冠じゃなくて栄冠です。競技の勝利者がかぶる冠。

悪霊が人間に食らいついたら、人間に対して勝ち誇ります。人間の中で、これに打ち勝てる者はいません。異次元の力で抑え込まれる。

いなごの特徴③ 顔は人間の顔のよう

悪霊は雰囲気・原理・思想ではありません。

ドストエフスキーの小説『悪霊』（あくりょう）の扉に、初めマルコの福音書の引用があるんですよ。

2千匹の豚に悪霊（あくれい）が乗り移って溺れ死んだという記事がありますね。それがずっと出て来る。

ドストエフスキーが紹介している悪霊（あくりょう）は革命思想です。

ある村に革命思想を吹聴する人が来て、それにかぶれた若者たちが革命に突入して行く。

思想にかぶれてしまう。革命のためには悪魔的な、どんなに非人間的な事もやるから「これは悪魔だ！」

そうじゃない。人間の顔のようとあるように知性・人格を持っているんです。

人間の特徴は人格を持っている事。悪霊はそれ自体が人格を持っています。でも、その人格は邪悪。

もし人間の中で1番近い人格があるとするとサイコパスだと思いますね。

そういう人と関わり合ったら大変でしょ。

黙示録 9:8 また、女の髪のような毛があり、歯は獅子の歯のようであった。

いなごの特徴④ 女の髪のような毛があり

新約聖書に“長い髪は女の栄誉である。それは神が女性に与えた美しい被り物である”という表現が出て来ます。だから、女の髪のような毛というのは否定的な意味ではないんですね。

これの答えはないんですが、私が考えるには、魅惑的なものではないかと思うんです。

動物学者の日高敏隆（ひだか としたか/1930-2009）さん。

動物学者なのに進化論を否定する本を書いた事で、一時期大変困った事になった人です。

彼によると、ホタルのお尻の光り方は種類によって微妙に違うそうです。

オスのホタルは、自分と同じ種類のメスの光り方を正確に見分けて接近して交尾する。

しかし、このホタルの世界にもものすごい悪女がいて、いくつかの異なるホタルの光り方を自在に使い分ける悪女のホタル。自分とは異なる種類のホタルのオスをおびき寄せて食べるんです。

ホタルの光（蛍の光って曲になってしまう）、ホタルのお尻を光らせる酵素は2種類あります。

ルシフェリンとルシフェラーゼ。これ、ルシファーから来たって言うんですよ。

つまり、非常に魅惑的なもので「カモ〜♡」みたいに。飛び込んでみたら、滅びしかなかった。

今の時代でも、悪霊的なカルト宗教やカルト団体に一旦浸かった人は、そこから抜け出るのが非常に難しいですね。不可能とは言いません。しかし非常に難しい。なぜか？

悪霊的なものの中に魅惑的なものがある。それはズバリ特別な経験です。奇跡的な経験。

そのカルトに繋がる事によって、今までできなかった、例えば霊が見えた・病気が治った・他の人には分からない事が分かった・幻が見える・何らかの肉体的変化を経験した。

色んなカルトの団体が大問題を起こして、解散してもまた戻る人がなぜいるのか？

特別な経験を覚えていて、それは自分が経験したので、自分の中では真実なものとして残っています。

でも奇跡というけど、その奇跡はどの霊から来たのか・どこから来たのかが1番問題ですよ。

奇跡があるから全て正しいもの、ではないんです。

実は“悪魔は光の天使に偽装して人間を欺き、本当の造り主から人を遠ざけるために欺きの働きをしている”と聖書は語っているんですね。その面を表しているのではないかな、と私自身は思いました。

いなごの特徴⑤ 歯は獅子の歯のよう

すなわち牙。獐猛。ライオンは獲物になんの憐みも思いやりもない。凶悪で乱暴で容赦しない。無慈悲。

悪霊は、憑りついた人間がどんなに不幸になろうが無慈悲です。

私は毎年沖縄、特に石垣島に行きますが、そこに元ユタの総元締めをしていたおばあさんがいます。

娘さんがクリスチャンになって、今では彼女もクリスチャンです。

ユタって分かりますか？霊媒師。もう気持ち悪いくらいよく当たるし、どんな病気でも治す。

でもユタの場合、治しても一時的で、また罹るそうです。治すために家を2件売らないとダメなくらい。

そんなユタの話をするとう方向性が変わるので、また別の機会に。とにかく獐猛です。

黙示録 9:9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のようであった。

いなごの特徴⑥ 鉄の胸当てのような胸当てを着け

胸当ては防具。鉄はこの当時、最も頑丈な金属です。

人間がどんなに反撃してもびくともしない、鉄壁のタフネスさがある。

いなごの特徴⑦ その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のよう

馬に引かれた戦車。映画の『ベン・ハー』、2頭立て・3頭立て・4頭立ての馬に引かれた戦車。

当時の最新兵器でした。馬が走って車輪が回るのでガタガタガタ！一騎ではなく十騎・百騎・何千騎。ワットと襲いかかって来たら、はるか遠くから、どんどんその音が近づいて来るのが分かります。その時の人間がどんな心境になるかという恐怖心です。恐怖のどん底に人を叩き落とす存在。悪霊。

いなごの特徴⑧ 黙示録 9:10 彼らはサソリのような尾と針を持っていて、その尾には、五か月間、人々に害を加える力があつた。

5か月間、人々をどう苦しめるのか。

黙示録 9:5 その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。

彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。

こういう説明は困るんですね。困るというか、刺された事ないもん。

サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。「あ、あれか！」と言う人、誰もいないでしょ。

“蚊に刺された時の痒みのようであった”なら分かる。

中東では二大恐ろしい昆虫がイナゴとサソリ。日本にもサソリ 2種類いるんですよ。ヤエヤマサソリ。ちっちゃくて、めっちゃ弱い。お尻の針があまりにも弱くて、人間の皮膚を貫通できない。「噛んでみ」言うても噛まれへん。その内ポロッと取れる。そんなカワイイのもいるけど、ここは中東。今でもブラジルでは年間3千人くらい、殆ど子供ですが、サソリの毒で死んでいる。このサソリは死に至らせないけど、5か月間苦痛を与えます。

その苦痛が、黙示録 9:6 その期間（5か月間）、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。

死にたいと思うような苦しさ。自殺する多くの方は、死にたいと思ってするんじゃないんです。生きているのが苦しいので、楽になる手段はこれしかないかなと思って死を選ぶんですね。死そのものを請い願うという事はないです。

富士山の麓に樹海があるでしょ。方位磁石が効かないという。だけど樹海にも遊歩道があって、入ってもちゃんと出て来れるんです。ところが遊歩道の左右に、樹齢何百年の樹木がうっそうとジャングル状態で生えていて、遊歩道から外れてその中に入り込んでしまったら出て来れない。

遊歩道に行った方が書いていました。道の左右に電柱のようにズラッと林立している樹木をよくよく見ると、ビニールのひもが結わえられている。

「もう苦しいから死ぬ。自殺する。」と思って中に入って行くけど、でも心が決まってない。

苦しいのから逃れたいのであって、死そのものを望んでいるわけではない。

そして、気持ちが変わった時にそのひもを辿って行くと、遊歩道に戻る事が出来る。

遊歩道の左右に林立している木に、なんとおびただしいビニールのひもが結わえられている事か。苦しい。でも、死そのものを望むわけではない。

ところが、ここでは死を探し求める。自殺願望がものすごく強くなる精神状態。
死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。
これは、自分が願っている事を自分がする事ができない。すなわち、人格が乗っ取られるという事です。

福音書に、悪霊に憑かれた人の描写があります。墓場に住んで自分の体を傷つけたりして。やりたくない事をやっているんですよ。自分が自分を傷つけるような事をやめる事が出来ない。
イエスから「おまえは誰だ」と名前を聞かれた時、自分の本名を名乗るのではなく、悪霊が代わりに返事して「我々はレギオンです。」人格がハイジャックされている。これが悪霊の攻撃です。

黙示録 9:11 いなごたちは、底知れぬ所（アブソス）の使いを王としている。
その名はヘブル語でアバドン、ギリシア語でアポリュオンという。

使いはアゲロス。これはエンジェル語源です。
他の所では“御使い”と訳されているのを、ここでは使いと書いているんですね。
アメリカ最大の暴走族ヘルズ・エンジェルズ（Hell's Angels/地獄の天使）、これアブソスの天使やねん。

アブソスの使いを王としている。悪霊たちから（ひれ伏して）「王よ」と崇められている。
誰ですか？サタンです。
その名はヘブル語でアバドン（破壊）、ギリシア語でアポリュオン（破壊者）という。
サタンは地球を破壊し、神の秩序を破壊し、人間を破壊し、神がこの世界に立てている最高のプランを破壊するために、何だってやろうとする霊的な存在。そういう者がいると聖書は言っているんですね。

丁度1時間になりました。結論に入りたいと思います。最初に申し上げた3つのポイントでお話します。

1) いなごのような悪霊の王であるサタンといえども、神の許可なしには何一つ行動できない。
黙示録 9:1 穴の鍵が与えられた。自分で持っているのではない。与えられたので開く事ができた。
持っていない時には何もする事ができない。初めから持っていたら、もっと早くやっていたと思います。

黙示録 9:5 その人たちを殺すことは許されなかった。誰が許さなかったんでしょうか？神です。
悪霊が人間に危害を加える時、命を取る事は神が許さなかった。
サタンといえども悪霊といえども、神の許可した範囲内でしか行動できない。
つまり、本当に力ある方は創造主なる神だけです。

サタン/悪魔・悪霊に注目していると、段々怖くなって、必要以上に思う事があるんですね。
「こわっ！今日怖い話聞いた。くわばらくわばら」とか言うてね。
だけど、サタンや悪霊の事でビビっている人は、是非覚えていて欲しいんです。
サタン・悪霊が何よりも震え上がって恐れている存在が、あなたを造られた創造主ですよ。
サタン・悪霊といえども、創造主の前では震え上がっている。
そして、この真に力ある方は良い方。神は良い方。賢い方。偉大な方。今私たちに恵み深い方。
その方が主権者として君臨しておられる事を、まず覚えたいと思います。

2) 良い方である神が、なぜ人間が悪霊の攻撃を受ける事をお許しになったのか。

悪霊の攻撃を受ける。その攻撃には制限が設けられている。だけど、5か月間苦しんで七転八倒する。なぜそれを許されるのか？ それは、限度が設けられた悪霊の攻撃を受ける事によって、「悪霊支配から逃れたい」と心の底から願うようになるためです。

なぜなら患難時代 後半の3年半は、いよいよ悪霊攻撃、サタンが完全に自分の思いと一致する人物を得るんです。反キリストですよ。

昔読んだ本でうろ覚えですが、北極圏に住んでいる方々、昔はエスキモーと言ったけど今はイヌイット。北極、住みたい？1年の半分以上は白夜で24時間日が照っている。24時間昼って、どうですか？ だけど、残りの数か月は24時間夜。黒昼（こくちゅう）。白夜も黒昼もいらんわ。24時間暗黒の世界を犬ぞりで横断した男がいて、この本もいつか紹介したいと。

極寒だから、1年の殆どストーブを焚きます。部屋には幼子もいて、何に対しても興味津々で、触ったり口の中に入れたりする。ストーブが燃えている時は行かないかもしれないけど、切っても余熱が残っている時は、「触ったら大やけどするから近づいたらダメ」と教育します。

それを言葉だけでなく、余熱で触っても火傷しないけど、確実に「イタッ！」という温度の時に、幼子の手を取ってギュッと付けるそうです。「ぎゃー！」誰が近づくかと。

敢えて苦痛を経験させる事で、致命的な大事故に至らないようにするという教育。

やけどしない。でも危ないという事を体で覚える。「絶対行ったらあかん」と心の底から思いますね。

この後、悪霊がますます大暴れするようになります。

サタンの支配下に入るといふ事はどれほど恐ろしく、人間を惨めにするかを期間限定で経験させる事によって、「絶対にそこに留まりたくない」といふ、神に立ち返らせるショック療法ですね。

実はこの期間、福音が宣べ伝えられているんです。

しかし、何らかの理由で聞こうとしない人たちがそうだった。彼らに悔い改めの心を起こさせて、「このままでは駄目だ。創造主の下に帰るんだ！」と心底願わせるためのショック療法ですね。

3) この時代、恐るべき悪霊の直接攻撃から逃れる道があるのか。

唯一の道が残されています。

そのヒントが、黙示録9:4 額に神の印を持たない人たちには（攻撃を）加えてよい。

という事は、額に神の印を持つ人はこの攻撃を受けない。額の印は人間には見えないと思います。

しかし神の目には明らかで、額に神の印を押してもらったら、この攻撃を受けずに済むという事です。よ。

どうすれば、それを頂く事ができるのでしょうか？ヒントとなる箇所を1つご紹介します。

エペソ 1:13 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のこば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。

聖霊は神の霊。約束の聖霊による神の証印とは神の霊による証印。

信じた時、神の霊である聖霊がクリスチャンの中に宿るのです。これは今の時代の特権です。

しかし患難時代は、聖霊が内側に宿るといふよりも、額に神の印が押されると書いてあるんですね。

いつ、そのような印が押されるのか？

あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。

福音を信じる事によって、神の印を押していただけるのです。今がそうなんです。
今恵みの時代に生きている私たちは、**救いの福音を聞いてそれを信じたことにより**、救いの証印を押していただく。キリストの陣営の中に入るという事は、サタンの攻撃から守られるという事です。

おかのきんや（岡野均矢/1949-）という少女漫画を描いていた方、漫画を描いて描いて描くけど、ほんとに売れなくて、エッセイストになってから突然売れ出しました。

彼が小学校3年生の時、公園で1人で遊んでいたらイヤな予感がした。

ふっと後ろを見たら、いじめっこで有名な6年生の男子3人組がニタニタ笑いながら近づいて来る。

「いじめられる！」すぐに公園を出て、走って逃げ出したけど、それが気に入らなかったのか、6年生が拳くらいの石をビュンビュン投げて来るんです。

もう怖くて怖くて走るけど、3年生より6年生の方が早い。あっと言う間に追いつかれそうになる。

商店街の中にもぐり込んで逃げて行くと、真正面に大きなショーウィンドーのあるお店があった。

すると6年生たちが「あっ」という顔して、石投げるのをやめました。手元狂ってガラスに当たったら弁償もんやん。石ではどうにもならないのでにじり寄って行くと、店の中から「こらーっ！小さい子をいじめちゃならん！」ピューッと逃げて行った。

髭の生えたおじさんが彼を庇って叱りつけてくれて、こう言ったそうです。「坊主、頭ええなあ。」

3年生1人が6年生3人に突っ込んで行くのは頭の良い戦い方ではない。

6年生3人が束になってもかなわない大人に守ってもらうのは知恵による勝利です。

人間よりも悪魔・悪霊の方がはるかに強いけど、それらよりもイエス・キリストの方がはるかに強い。

イエスの中に逃げ込む事こそが完全な守り・完全な救い・完全な平安に至る道です。

それは、**救いの福音を聞いてそれを信じることにより**、皆様も今日すぐにも受け取る事ができるのです。

いかがでしょうか。どうぞ患難時代に入る前に、イエス・キリストを信じてください。

心からお勧めしたいと思います。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「**HCA 東住吉キリスト集会**」

\* ラジオ番組「**聖書と福音**」（約15分）も是非どうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube「**ごうちゃんねる**」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi